



みくびだより

発行 御首神社社務所

御挨拶

拝啓 当神社の御神域も深い緑に包まれて新しい息吹が感じられるようになりりましたが、皆様方におかれましては愈々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

天皇陛下におかれましては、昨年十二月二十三日めでたく喜寿のお誕生日をお迎へになられ、一国民として心よりお慶び申し上げます。今後のご皇室の益々の弥栄をご祈念申し上げます。

さて、本年三月十一日三陸沖を震源とする巨大地震が発生、大津波を誘発し死者行方不明者は、二万四千人余を数へ、また福島第一原子力発電所の被災に伴い、近隣市町村住民が避難するなど、戦後未曾有の大災害となりました。茲に、被災された皆様に衷心よりお見舞い申し上げますと共に、犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表します。

ご皇室におかれましては、皇太子ご夫妻・秋篠宮ご夫妻が、早々に東京都内の避難所をご慰問になり、天皇皇后陛下におかせられました。余震の続く最中被災地各所に赴かれ、冷たく固い床をおつきになり、被災者に目線を合わせられ、温かい励ましの言葉をおかけにされました。また、陛下は国民へのビデオメッセージをご発表になり、「被災者のこれからの苦難の日々を、私たち皆が、さまざまに形でも多く分かち合っていくことが大切であると思えます。」とお言葉をお述べにされました。私どもは、この大御心に少しでも報い奉ることを念頭に置き、この度の「戦後最大の災害」に向き合い、復興に向け弛まぬ努力と無私の精神を以て仕えなければなりません。

当社におきましても、被災神社の復興義捐金を募りましたところ多くのお気持ちを頂戴いたし、神社包括団体を通じて納めさせて頂きました。厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、東日本大震災により大切なご家族を失われましたご遺族の心が、一日も早く癒えますこととお祈り申し上げますと共に、負傷された人々の早期回復と市街の復興を祈念いたし、御挨拶とさせていただきます。

宮司 三浦 篤

『大国主神の国譲り』 (中巻)

建御雷之男神は天鳥船神に「すまぬが、八重事代主神が漁をしている岬まで行って、彼を連れて来てはくれぬか?」と言いました。天鳥船神は「お安い用です。」と飛んで行く

と、あっという間に八重事代主神を連れて帰ってきました。八重事代主神は話を聞くと「その言ひ事でしたか。この国を天照大御神さまのご子孫にお守り戴けるではありません。

断る理由がございませぬ。」と答えました。大国主神は、大切に守ってきたこの国を、あつせいに譲ってしまう息子の人の良さに少し驚いてしまいました。

すると建御雷之男神が大国主神に向かって「さて、八重事代主神は良いと申してあるが、そなたの考えはどうじゃ?」

と尋ねました。大国主神は「じ、実はもう一人、建御名方神と言ひ息子がおります。彼が良いと言えば私もこの国を譲る決心が付きます。」と答えました。

二人が話している中『ドスン!ドスン!』と千人がかりでやっとなげるくらい大きな音を軽々と持ち上げて、建御名方神が歩いて来ました。そのやうに二人の会話が聞こえていたら



「お前は誰だ?勝手にこの国を奪ひ取るな!」と、とても怒っています。そして「よし、ならば俺と力比べをして、勝てたら話を聞いてやろう。」と、いきなり建御雷之男神の手を強く握ったのです。

次の瞬間「おお。痛い!痛いぞ!」と叫び声が響き渡りました。何と叫んだのは建御名方神のほつてした。見れば建御雷之男神が一瞬で自分の手を氷の刀に変化させていたので、建御名方神の手が切れてしまったのです。すると建御雷之男神は「今度は私がそなたの手を握ろう。」と言ひ、建御名方

神の手を取ると、まるで草でも抜くかのように軽く建御名方神を投げ飛ばしてしまいました。

建御名方神は怖くなって一目散に逃げ出しました。そして信濃国（今の長野県）まで逃げたところで「ここまで来れば大丈夫だろう。」と後ろを振り返ると、今まさに氷の刀で建御名方神を斬るひびひびしている建御雷之男神が立っていたのです。建御名方神は「ひゃー！た、助けください。この国はお譲り致します。その後は、この信濃国から一歩も出させないでこの力命だけは…。」と泣き叫びました。



それを聞いた建御雷之男神は大国主神のところへ戻って、「二人とも良いと申した。では、この国を譲ってくれるな？」と言い、大国主神も仕方ないと「はい。譲りましよう。…その代わり、私の住まいとして、天にも届くような立派な宮殿を建てて下せませんか？」とお願いすると、建御雷之男神は「しほ。それくらいは良からう。」とだけ言い残り、天鳥船に乗って天の国へ戻っていきました。

◎ おとうさん、おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃんへ！

前回に続くお話「国譲り」をお届け致しました。
 古来より伝わる神話を、お子さまやお孫さまと一緒に読んでいただき、子供たちの情操教育の一助となりましたら幸いです。

祭事報告

▼浄火祭

二月三日午前十時齋行

神事は厳しい寒さの中、宮司以下祭員・厄男・総代役員を始め多くの氏子崇敬者が見守る中、厳粛に執り行われました。一年間に亘り御神前に奉られました金幣串、願いを込めてご奉納された絵馬・帽子、ご自宅の神棚等でお祀り頂きました紅白串等を火炉に集め、皆様方の心願成就を祈念し、忌み火を以てお焚き上げ致しました。境内では、敬神婦人会の皆さんの助成にて甘酒が振る舞われました。毎年甘酒を楽しみにお見えになる方も多く聞いております。



▼例大祭

四月二日午後三時齋行



本年の例大祭は晴天に恵まれ、桜の花も満開の中で齋行されました。境内は祭禮提灯が彼方此方に立ち並び、香具師の屋台が軒を列ね、特設舞台では子供達の打ち囃子の披露、演芸が催され終日賑やかな声が響いております。

諸祭典(抜粋)

- ▼ 月次祭
- ▼ 年越大祓
- ▼ 元旦祭
- ▼ 左義長
- ▼ 祈年祭
- ▼ 鍛山神社例祭
- ▼ 南宮神社例祭

御首神社ホームページ 神職への質問Q&A

問 先日お参りした神社に賽銭箱が無かったので、そのままお祈りして帰宅してしまいました。普段お賽銭を投げ入れ、お祈りしている私としては、何かしつくりとせず、未だに気になっております。このような神社にお祈りする時、お賽銭に代わるお供え物を何かした方が良いのでしょうか？

また、例えばお酒を供え物とするなら、奉献の熨斗紙を付けてお供えしたほうが良いでしょうか？

答 賽銭箱の無い神社となりますと、常勤の神職がいない神社が殆どかと思われます。何かお供えと言う行為は大変良いことですが、無人であるため、せつかくのお供えの管理が出来ず、時として動物などに荒らされ、汚されてしまう恐れもございます。このような神社の場合は、その神社の宮司さんや神社のお世話をされてる総代さんを通じて、お供えされるのも一つの方法かと思えます。

お酒のお供えでしたら熨斗紙をお付けになれば、尚一層丁寧なお供えになるでしょう。

崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の諸病を憂う者此の社に願えば靈験あらたか：」と伝わりし御首神社の御神徳に感謝し、ご家族の諸病平癒・無病息災・家内安全生業繁栄並びに子孫繁栄を願う崇敬者の会として設立されました。

入会を望まれます方は、社務所までご一報下さい。早々に案内資料をご用意させていただきます。

会員の特典(抜粋)

- ・ 入会報告祭の実施
- ・ 誕生特別祈禱の実施
- ・ 及び祈禱神符の授与
- ・ 主要祭典のご案内
- ・ 正式参拝

会員の種類と年会費

個人	三千元
家族	五千元
特別	一万円
法人	二万円
名誉	三万円

お問い合わせ先

神社社務所まで
〇五八四一九一三七〇〇

大鳥居等注連縄にご奉賛のご芳名 (平成二十二年七月下旬から十二月下旬迄)

*紙面上には、二五三名のご芳名がご紹介されていますが、個人情報
報の関係もあり、敢えてご紹介を控えさせていただきます。

御奉賛の御礼

先の冬号に続き、大鳥居等の注連縄のご奉賛に際し、多くの皆様の赤誠溢れるご奉賛を頂戴いたし、無事奉納させて頂きました。誌上より厚く御礼申し上げます。

(順不同・敬称略)

祭事案内

▼夏越大祓

八月七日午後三時半

夏越大祓は、半年間に知らず知らず身についた罪や穢れを人形（ひとがた）に託し、忌み火にて焚き上げる神事であります。茅の輪くぐりは、当日神事終了



後から午後五時半頃まで行いますので、是非ご家族お揃いでご参加になり、暑い夏を健康にお過ごし頂きたいと存じます。また、夏越大祓の人形（ひとがた）につきましては、社務所にございますので自由にお持ち頂きまして、期日までに神社にご持参頂くか、或いは郵送下さいますようお願い申し上げます。

▼七五三祝祈禱

十一月



七五三祝いは、子供の成長に節目をつけてその年齢まで無事に成長出来ました事を大神様に感謝申し上げると共に、今後のお護りをお願いするお祭りであります。古くは、男の子は三歳と五歳、女の子は三歳と七歳にてお祝いされておりましたが、近年は男女共に三歳・五歳・七歳にて参拝される方々も多数お見えになります。

平成 23年 七五三

	数之歳	満年齢
7歳	平成 17年 生まれ	平成 16年 生まれ
	平成 19年 生まれ	平成 18年 生まれ
5歳	平成 21年 生まれ	平成 20年 生まれ
	平成 23年 生まれ	平成 22年 生まれ

崇敬会からのお知らせ

崇敬会も発足以来、今日まで順調に運営出来ておりますことは、これ偏に会員皆様の深いご理解と、篤いご崇敬の賜物と厚く御礼申し上げます。

この度、崇敬会会員証の変更に伴いまして、会員更新時にお渡しする書類が、左記の様に変更となりましたので、ご報告方々お知らせ申し上げます。

【変更内容】

- 一、会員証について
 - ・ 小型化
 - ・ 様式（下画像参照）
 - ・ ケース廃止
- 一、認定証について
 - ・ 廃止（入会時発行のみ）



諸祭典（抜粋）

- ▼ 月次祭
- ▼ 農休み祭
- ▼ 西宮神社例祭
- ▼ 末廣稲荷神社例祭
- ▼ 長寿祈願祭
- ▼ 崇敬会大祭
- ▼ 新嘗祭

編集後記
今号を持ちまして、大鳥居等注連縄奉賛に關します掲載を納めさせて頂きまして、次号には、新たな装いを加えてまいりたいと思っております。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一三三〇
TEL(〇五八四)九一三七〇〇
Eメール syamusyo@mikubi.or.jp